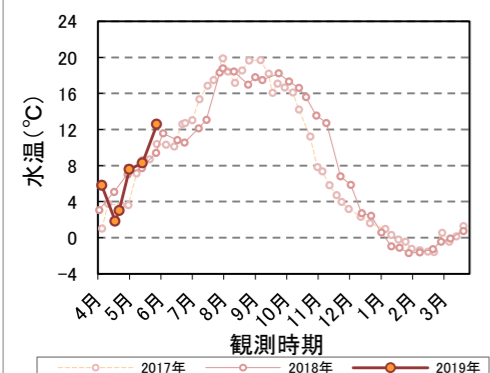


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2019年5月)

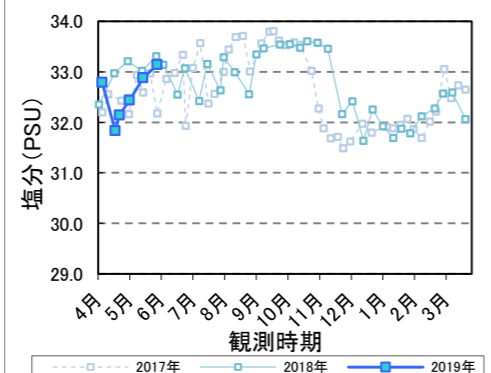
海洋環境データ

※観測：紋別市

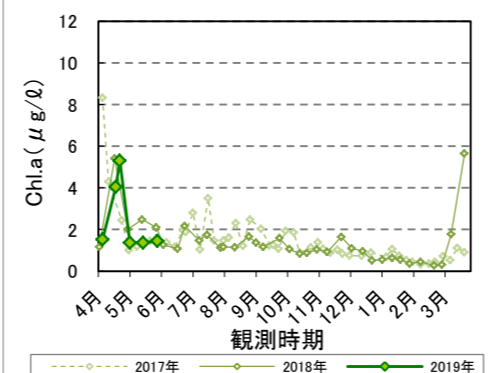
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



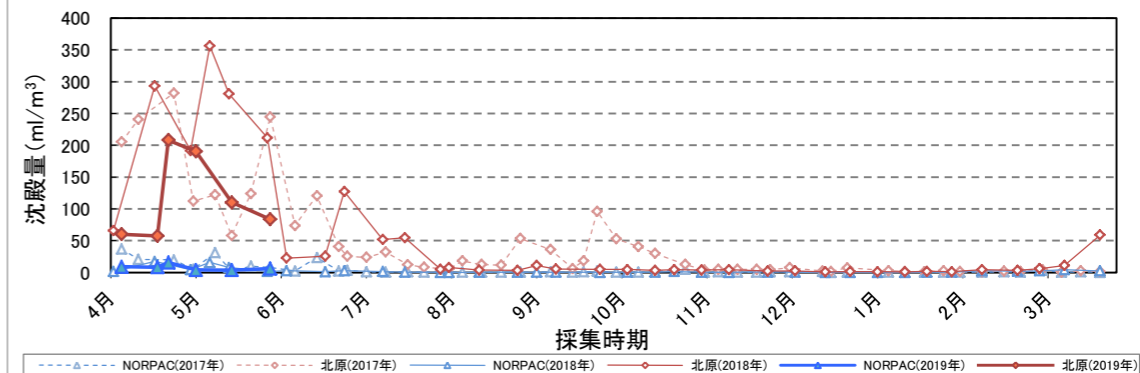
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

	5月2日	5月15日	5月29日
平均水温 (°C)	7.6	8.3	12.6
平均塩分 (PSU)	32.4	32.9	33.1
平均Chl.a (µg/L)	1.4	1.4	1.5
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 3.9 (北原式定量ネット) 190.6	(NORPACネット) 3.8 (北原式定量ネット) 110.1	(NORPACネット) 5.9 (北原式定量ネット) 83.8
主な出現種	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎<i>Eurytemora herdmanni</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Calanus pacificus</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [暖水性] ○<i>Pseudocalanus newmani</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎<i>Eurytemora herdmanni</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○<i>Metriclia pacifica</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Pseudocalanus newmani</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎<i>Eurytemora herdmanni</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎<i>Rathkea octopunctata</i> [++++] ◆ (ミミコガガ) [暖水性] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ○<i>Eurytemora herdmanni</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] 	<p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<i>Eucalanus bungii</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎<i>Eurytemora herdmanni</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ○<i>Eurytemora herdmanni</i> [++] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○<i>Metriclia pacifica</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性] ○<i>Acartia longiremis</i> [+] ◆ (カイアシ類の1種) [冷水性]
備考	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) 珪藻極めて多い	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) 珪藻多い	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) 珪藻多い

出現量の多かった種類

- Pseudocalanus newmani* ◆ (カイアシ類の1種: ヌナト・ヌナト・コガガ) 体長: ♀0.9-1.5mm, ♂0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季層にカイアシ類の1種となる。
- Rathkea octopunctata* ◆ (ヌナト) 体長: 4.5mm以下。日本各地の沿岸にみられる。未成熟な時期に、海中に漂遊のクラゲ群が、それが1つずつ分離してクラゲとなるため、急速に個体数を増やすことができる。
- Eurytemora herdmanni* ◆ (カイアシ類の1種: ヌナト・ヌナト) 体長: ♀1.3-1.4mm, ♂1.1-1.2mm. 主に北半球高緯度地方に分布。日本では北海道東部の汽水域や沿岸部、青森十三湾等。雌の体の後端の形が寛状に左右非対称に突出するのが特徴。
- Podon leuckarti* (ヌナト) 体長: ♀0.5-0.9mm, ♂0.5-0.8mm. 日本沿岸の沿岸、内湾に極めて普通。世界各大洋の沿岸で知られている。
- Oithona similis* (カイアシ類の1種: ヌナト) 体長: ♀0.7-1.0mm. 各地の内湾、沿岸、外洋で普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種類。各大洋に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- Balanomorpha* (nauplius) (カイアシ類の1種: ヌナト) フツツボ類の発生途中の幼生。フツツボ類はほとんどが同体で、顔から化後にノープリウス幼生、キプリス幼生の段階を経て固着生活に移る。
- Copepoda* (nauplius) (カイアシ類の1種: ヌナト) カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス幼生、コペポダイト幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生類には、顔としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定のといわれている。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献:

①千原・村野(1997) 日本産海洋プランクトン検索図説(東海大学出版会) ②山路(1966) 日本海洋プランクトン図鑑(保育社) ③若国市立微生物館 監修(2011) 日本の海産プランクトン図鑑(共立出版)

④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.

⑥林(2006) 水産無脊椎動物学入門(恒里社学生) ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.

⑧西・加藤(2002) 日本産カムリコカイ科多毛類の分類について. *タクサ*, **13**, 5-17. ⑨今島(1996) 環形動物 多毛類[生物研究社] ⑩日本プランクトン学会 監修(2011) *ずかん* プランクトン[技術評論社] ⑪水島・鳥澤 監修(2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち[北海道新聞社]

⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌*, **26** (9), 877-881. ⑬伊藤・水島・久保田(2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*, **3** (1), 19-35.

⑭大越・野村(1990) 穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝養食状況. *日本水産学会誌*, **56** (10), 1593-1598.